

I. 2022年度の活動報告と今後の方針

委員長 妻屋 彰

2022年度もコロナ禍は終息せず、さらには2月からロシアとウクライナが戦争状態となったこともあり、国内外で人の流れや物の流れに大きな影響が出た一年となりました。一方で、情報の流れに関しては着実に浸透してきています。ここでの情報の流れは単に人の流れを補完するものだけでなく、いわゆる Cyber Physical System も含みます。その実現のためにはIoTなどを用いた情報収集技術、5Gなどの情報通信技術に加えて、収集した情報の処理技術が中核となりますが、学習を中心にAI技術が急速に発展するとともに広範に取り入れられてきています。今後どのような展開になるかはわかりませんが、自然言語処理分野では2022年11月に公開されたChatGPTが大きな話題となっています。

さて、本専門委員会も引く続くコロナ禍の影響もあり、あまり活発に活動することができませんでした。しかしながら、徐々に制限が緩くなってきたこともあり、年度の後半に対面とオンラインのハイブリッドによる企画を実施することができました。2022年12月には、安心安全をテーマに、独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)大阪事業所の見学と1名の講師を迎えての講演で構成された見学会・講演会を行いました。2023年1月に開催したシステム制御情報学会 CyFA 研究分科会との共催研究会では、実世界と仮想世界をつなぐ技術をテーマに「AR・VR技術とものづくりへの応用」と題して3名の講師による講演会を開催し、約40名の方に出席いただきました。5軸工作機械の空間精度補正技術調査研究小委員会でも2022年4月と2023年1月にそれぞれ講演会・見学会が開催されました。また、2021年度に引き続き第65回自動制御連合講演会において本専門委員会から「総合生産システムの理論と実践 ～設計・制御・管理」と題したオーガナイズドセッション企画し、8件の講演発表を集めました。

2023年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が季節性インフルエンザなどと同等レベルに引き下げられることになっており、ほぼ2019年以前の状態に戻らるうと思われます。2023年度より委員長となる諏訪晴彦先生を中心に対面あるいはハイブリッドでの講演会や見学会などを企画・実施する予定です。2023年度につきましても、なお一層のご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。